

# フォトモ活用まちづくりワークショップの計画とその実践報告 - 親子赤岡探偵団 第2段の開催から -

## (要旨)

高知工科大学大学院工学研究科基盤工学専攻社会システム工学コース

1055155 廣澤 靖子

### 1 計画の背景

高知県赤岡町では、これまで「心地よいふぞろいさ」のある歴史的まち並みづくりが《まちづくりワークショップ》(以下「まちWS」と略す)を活用して進められている。その活動の一つとして、『赤岡探偵団』(1998年)や『親子赤岡探偵団』(2000年)の取り組みがあった。

一方、近年「フォトモ」が注目されはじめています。フォトモとは、写真(フォトグラフ)を切り抜いて組み立てた模型(モデル)であり、写真でありながら、模型の特徴を兼ね備えている。また、フォトモによる表現は、奇妙に遠近感が凝縮された世界が広がる。

しかし、フォトモは「まちWS」において未だ活用されていない。



写真1 フォトモ

### 2 計画の目的

本計画は、フォトモのおもしろさを用いて、地域のもつ魅力を発見や再確認する「まちWS」への活用を考える。その実践として、親子赤岡探偵団第2段を開催し、その結果を考察する。

### 3 既往研究の状況と本計画の位置づけ

ワークショップ(以下「WS」と略す)の定義やその歴史等については、中野によってわかりやすくまとめられている。(中野, 2001)また、「まちWS」については、林・大谷らによって「まちWS」の意義やあり方、「まちWS」の全体的有効性についての論説がある。(林, 1996、大谷, 2002)さらに、「まちWS」の技法等については、世田谷まちづくりセンターによって「参加のデザイン道具箱1~4」としてまとめられている。(浅海ら, 1994, 1997, 1999, 2002)子供の目線による有効性については、延藤らによって「こどもとまちづくり 面白さの冒険」としてまとめられている。(延藤ら, 1996)

また、フォトモの面白さや優位性は、糸崎によって「出現! フォトモ 街を切り取り組み立てる」や「フォトモ路上写真の新展開」としてまとめられている。(糸崎, 2002、及び、糸崎ら, 1999)しかし、そのフォトモは、路上観察で魅せられた被写体を、リアルに再現するための表現媒体として展開していた。

そこで、本計画の位置づけは、フォトモのおもしろさ・優位性を「まちWS」に手法として取り込み、フォトモ活用まちづくりワークショップ(以下「フォトモまちWS」と略す)として構成し、新たな「まちWS」手法の一つをつくりだすことにある。

## 4 計画の構成

本計画の構成は、 フォトモの特徴を整理、 赤岡町のまちづくり活動の経過を整理、 「フォトモまちWS」の実施計画を作成、 「フォトモまちWS」の実施と結果の整理、 「まちWS」へのフォトモ活用についての有効性の考察を行うものである。

有効性の検証方法については、実践の場における参与観察法\*1を用いた観察と、参加者やワークショップスタッフにヒアリング調査を実施し、その両方の結果から考察するものである。

## 5 フォトモをまちWSへ活用するための整理

### 5.1 フォトモ加工方法の選定

糸崎は、A4サイズに収められたフォトモキットなどのパーツと共に組み立て説明図を用意し、組み立てフォトモが作成できるようにしている。その加工法はおおまかに、表1として5つに分類する。

フォトモ独自リアリティを体験するためには、実際にフォトモを組み立てなければ、実感できない。今回の「フォトモまちWS」では、比較的容易に準備の出来る、長いフォトモ(写真2)を参考に、計画・実践する。

表1 フォトモ加工の5分類

分類	特徴
内部再現フォトモ	1軒のお店を社会見学風に再現
ジャバラ状フォトモ	電車やバスなど車内で取った写真をジャバラ状につなげて再現
360度タイプフォトモ	裏も表も全方位立体化
長いフォトモ	ある区間をノーカットで再現
工事現場フォトモ	工事の様子を再現



写真2 小岩駅南口あけぼの商店街フォトモ

### 5.2 まちWSへのフォトモづくりの位置づけ

「ワークショップの特徴は、「参加」「体験」「相互作用」である。そして、必須条件は「場づくり」「プログラム」「ファシリテーション」である。これらの条件が整って、三大特徴が活かされる場ができるのである。」(中野, 2001)

フォトモが持つ独自のリアリティを体験するためには、フォトモを組み立てる「行為」が必要となる。その「行為」は、心や体の全体を使って「体験」していくものである。これは、ワークショップの三大特徴の「体験」を兼ねている。また、「まちWS」において参加者は、フォトモを作成する「行為」によって「参加」を促すことにもつながる。

### 5.3 フォトモキット化の基準

糸崎らは、「フォトモがもたらす、独特の立体感、写真に写る「ニセ立体」と工作による「本物の立体」が混ぜ合わさってできあがる」「フォトモの中の切り抜かれていない細かな部分までもが立体的に立ち上がって見えてくる」と唱えている。(糸崎, 1999)

フォトモのリアルさを出すためには、撮影した写真から強調する部分を限定する必要がある。強調する部分は、写真に映し出された対象物の大まかな部分や輪郭、自転車などの小物とする。

以上のことから、キット化の手順は表2のとおりとなる。作製したキットは写真3である。

作製したフォトモキット、キットを作製するためのハサミ・両面テープなどの模型づくりセットとワークシーヤプログラム、ペンなどの「フォトモまちWS」に必要な道具を用意した。

表2 キット化の手順

キット化の手順	
	対象物と撮影場所までの距離を定める。
	定めた距離から、対象となる建物の全体像を、何枚かに分割して写真に収める。
	写真を重ね合わせてから、建物全体をつくる。その輪郭部分を抜き取る。
	建物の外観で屋根やテントなどの出っ張りとなる部分は、フォトモキット本体への取り付け箇所（部分立体）として抜き出す。
	部分立体は本体へ貼り付けるため、のりしろを用意する。



## 6 フォトモ活用まちWSの実践

### 6.1 フォトモ活用まちWSの概要とプログラム

「フォトモまちWS」は2003年8月23日、赤岡町において、夏休み中の子供たちを対象として実施した。そのプログラムは図1のとおりであり、約3時間のプログラム構成である。主な活動内容は、フォトモをつくる、探偵してくる、報告するの3つとなっている。

### 6.2 フォトモまちWSの様子

#### フォトモをつくる

フォトモ作成の説明を受けた後、参加者一人ひとりが1つずつのフォトモを作成した。子どもたちは、各々真剣に作成し、また、お父さんやスタッフが子供たちの作成を手伝っていた。作成時間は30分であったが、大人たちのサポートもあり、ほぼ予定していた時間内に作成を終える事ができた。

事前に用意しておいたフォトモ24軒と参加者が作成したフォトモ18軒、のべ42軒のフォトモにより赤岡町のまち並みが再現された。

#### 探偵してくる

参加者一人ひとりが作ったフォトモの家々を探偵してもらうため、ヒアリング用紙やカメラなどの探偵セットを配布し、探偵の心得と探偵の方法について説明を行った。

参加者は、班ごとに分かれて各自作成した家々を訪ね、事前に渡されたヒアリング用紙をもとに調査を行った。そして、参加者が訪ねてみて面白い、あるいは魅力的だと思ったところや、ヒアリング対象者から紹介された坪庭などの内部空間をカメラに収めている。

#### 報告する

調査から帰ってきた参加者は、報告シートに各班で探偵してきたヒアリング用紙や写真を貼る。また、面白いと思ったところや魅力だと感じたところに対しての感想を記入し報告シートのまとめ作業を行った。そして、まとめられた報告シートを、班の中でのイチオシ・ニオシとして、再現されたまち並みの前で発表した。訪ねた家のフォトモを使いながら発表をしている子供たちもいた。

## 7 まちWSへのフォトモ活用についての有効性

「フォトモまちWS」の実践と「まちWS」へのフォトモ活用の有効性について考察する。考察の視点は下表3の3つのとおりである。

表3 考察の視点

- |  |
|--|
| 1) フォトモを取り入れた全体構成<br>2) WSにおけるフォトモづくり<br>3) フォトモでつくった町屋を深く知る |
|--|

### 7.1 フォトモを取り入れた全体構成

「フォトモまちWS」では、フォトモ作成を行う事により、従来のまちウォッチングの構成に対し、フォトモをつくることによって、対象物への客観的視点の促進が多くはかられた。

参与観察による参加者の様子やつぶやきから、参加者の日常生活において、まち並みや建物など対象物に対し無意識であったことを確認することができた。フォトモ作成が対象物に対し期待を膨らます事に有効であったことがわかる。(図1)

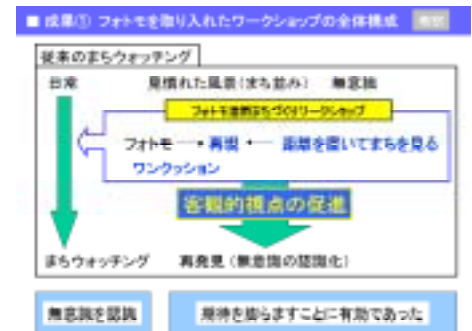


図1 成果1

### 7.2 WSにおけるフォトモづくり

限られた時間内で、いくつものアクティビティをもつWSや、フォトモづくりにかけられる時間、子供の技量を考えるにあたり、その対応・対策として、フォトモの簡便化をはかる必要があった。そこで今回の「フォトモまちWS」でのフォトモづくりは、通りに面したファサード部分を再現することとした。しかし、奇妙に凝縮された遠近感の広がる世界がフォトモの特徴でもあるため、屋根や小物、建物の奥行きなどを再現する部分立体化を図った。

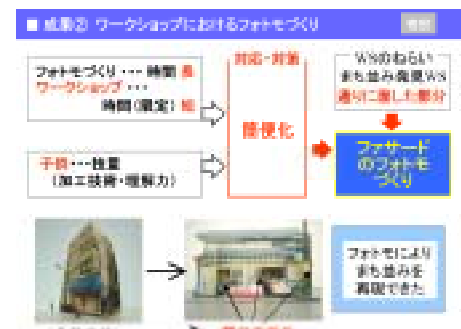


図2 成果2

これらの対策と、各グループ内に大人やスタッフを入れ、低年齢の参加者がお互いに作業をサポートすることにより、フォトモによるまち並みを、限られた時間内に再現する事ができた。(図2)

### 7.3 フォトモでつくった町屋を深く知る

従来のまちウォッチングは、事前説明を受けて、地域へと出かけ、見慣れたまち並みから再発見・確認している。「フォトモまちWS」では、1軒を対象にフォトモをつくることで、その対象となる建物に興味を深く持たせた。その結果として、現地調査では、対象建物の歴史や家屋の現在の使われ方や外観からは想像できない内部空間の発見をすることができた。

ある1軒を事例に挙げると、参加者は黒石金物店の天井にある「あかりとり」に気が付き写真を撮っている。また何のためにつくられたものなのか、どのように使っていたのかを家主の方に聞いている。現地調査から生活者を通じて、1軒の町屋建築の内部（庭や構造）を深く知ることで歴史や愛着などの本質的な認識を深めることができた。(図3)

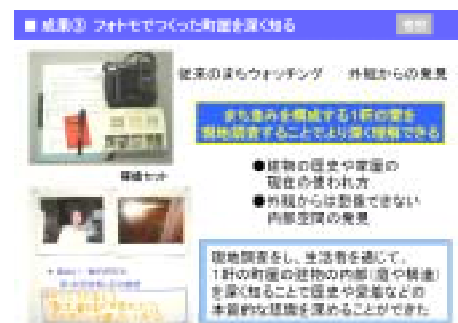


図3 成果3

#### 7.4 フォトモまちWSの問題点と対応策

「フォトモまちWS」の問題点とその対応策は表4のとおり。

「まちWS」の対象となる範囲をどう定めるか、プログラム内でのフォトモづくりをどう組み込むかによってフォトモ活用の有効性が決まると考える。再発見・再確認させたい箇所が点在している場合は、使うフォトモの形状も異なってくる。

今回実践した子供を対象としたまち並み発見WSを行う「フォトモまちWS」では、ある区間をノークットで再現するフォトモを用い、長期準備期間、子供の力量、まち並みを構成する建物の把握、について特に留意する必要がある。

表4 問題点と対応策

問題点	対応策
長期準備期間 写真撮影からフォトモキット化までが時間がかかる	・加工のマニュアル化
子供の力量 個人差・低学年には難しい	・グループ内にスタッフや大人の配置 ・プレフォトモWSの実施
まち並みを構成する建物の把握 他の多くの町屋を知ることが出来なかった	・グループごとの町屋調査活動とその探偵結果の報告の充実

**Plan of "Machizukuri" Workshop using "Photomo" and the practical report  
-Through the practice of the second "Oyako-Akaoka-Tanteidan"  
( Abstract )**

Course of Infrastructure System Engineering, Graduate School of Engineering,  
Kochi University of Technology  
1055155 HIROSAWA Yasuko

This is a practical report of “Machizukuri” workshop using “Photomo”.

There are two points in the background that the writer formed the plan. One of the points is an activity of “Machizukuri” by a “Machizukuri” workshop in Akaoka-town where in Kochi prefecture, and the other is interesting character of "Photomo" that is an assembled model of photos.

The “Machizukuri” workshop in Akaoka-town is called “Oyako-Akaoka-Tanteidan the second” that is taking a flow of the activities of “Machizukuri” in Akaoka-town. From the flow, compilations of putting the result of the “Akaoka-tanteidan” which were held in July.14,1998 and the “Oyako-Akaoka-Tanteidan” were held in August.13,2000 in order are written.

As for “Photomo”, according to “Shutsugen-Photomo” which were written Mr, Kimio Itozaki, there are five case studies and the way of expressions to tell how it works in workshop. It is an assembled model of photos; therefore, it has a character of model and photo too. And also this has odd-looking perspective of condensed world.

“Photomo” has never been used in “Machizukuri” workshop; therefore, consider the possibility of holding “Oyako-Akaoka-Tanteidan the second” using “photomo” as the background of this planning.

Based on the summaries from every chapter, make a plan of “Photomo-Machizuukri Workshop”. The contents of the practical Planning are following:

1. Purpose of this holding and brief summary
2. Contents of this plan
3. Contents of preparation (how this plan prepared)

From the practical planning, “Oyako-Akaoka-Tanteidan the second” were held in August.23, 2003, and the contents of this report, master planning, are also showing about the atmosphere of following the program in the workshop using some photos.